

2018（平成30）年度 学校関係者評価委員会報告書

学校関係者評価委員会

<p>経営目標</p>	<p>学院教育理念の下、園児一人ひとりの個性や育ちを尊重し、個々の能力の伸長を図る。 新しい認定こども園教育・保育要領に対応、指導力と教育保育内容の更なる充実と見直しを図る。 預かり保育の質の向上を図る。 教職員のワークライフバランスを考えつつ、世代交代を円滑に図る。</p>
<p>重点課題</p>	<p>関係者評価委員会のご意見</p>
<p>(1) 教育・保育力の向上 目標とする子ども像の明確化を図り、教育保育カリキュラムの精選と変更を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・主体性、協働性を育てることを意識したカリキュラムの構成 ・日々の継続指導による数や文字・言葉の指導 ・子どもの育ちに合った体力強化の場の設定 ・表現（コミュニケーション）能力の育成 ・縦割り保育（異年齢交流）のカリキュラムの実践と蓄積 ・理科的事象を利用した好奇心・探究心の育成 ・食育の充実 	<ul style="list-style-type: none"> ・幼保連携型認定こども園のメリットを活かし異年齢交流も取り入れ、各学年ごと、年下の子どもに優しく接する気持ちを持ったり、年上の子どもの行動を見て、自分もやってみようという意欲を抱くようになっていたりしている。 ・日々細かく、丁寧に、繰り返しを大切に、ねばり強く保育がなされている。 ・生活発表会は主体的、協働的な活動の実践および表現力の育成に大いに役立っていた。 ・子どもたちで話し合い、楽しみながら自分の言葉を使って表現できるような機会が設けられ、子どもたちに寄り添いながらカリキュラムを発展させる努力がなされている。 ・追手門学院小学校の先生による理科実験は、子どもたちの知的好奇心や科学的なものの見方や考え方を育てるきっかけとなり、真の学びを育む体験型教育を実践できていると思う。 ・今後求められるアクティブラーニングの視点から、少人数のグループ活動を通じて、意見をまとめたり、表現したりする機会を作っていくことで言葉による表現力の育成につながると思う。
<p>(2) 募集・広報 教育と保育、進学支援と子育て支援のバランスの取れた園であることの情報発信を行い募集に資する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ホームページ、園からの刊行物等を使用した園から情報発信 ・子育て支援事業（フォーキッズ）による教育保育情報の発信 ・2歳こあら組の新設による園児確保 ・地域行事への積極的参加による親和感の醸成 	<ul style="list-style-type: none"> ・今の保護者は何よりメディア、インターネット等による情報収集を主にしていると思うのでより一層のホームページ充実を期待する。 ・一日の活動や行事の様子を写真等をブログ等で発信することを通じて、より園をより身近に感じてもらえると思う。 ・地域から愛されるこども園であることの努力（千里キャンドルロードへの参加等）がなされていると感じる。

<p>(3) 進路 各家庭の希望実現のため、園としてとれる最大限の支援を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・併設小学校校長他による年少・年中時からの説明会の実施 ・補習形態の再検討と実施 ・担任による進路懇談会の実施 ・進学に関する情報提供 	<ul style="list-style-type: none"> ・併設小学校への進学のみならず、他校進学希望者へのきめ細かいサポート（補習・進路相談・現役保護者による学校の情報提供の会等）が行われている。 ・通常の保育や預かり保育の中でも、受験で必要となる（小学校に進学してから必要となる）要素を取り入れた保育がなされていると思う。 ・追手門学院小学校以外の国立・私立小学校に対する指導もより強化できればよい。
<p>(4) 併設校連携 総合学園の中のこども園である利点を最大限活用し教育・保育活動に反映、他園との違いを活かす。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小学校との連携 科学遊び、施設利用等 ・両中高との連携 インターンシップの受け入れ、吹奏楽部による演奏会 ・大学との連携 インターンシップの受け入れ、施設利用 大学教授による読み聞かせ ・チアダンスによる連携 新たに課外活動としてチアダンスを取り入れ小中高大の各クラブとの合同演技を実現 	<ul style="list-style-type: none"> ・今年度も追手門学院小学校でのプール遊びを実施することができたが、今後は、プール使用だけでなく、新しくできる東館の図書館やグラウンド等を利用させていただくことで無理なく小学校へつながるよい経験ができると考える。 ・小学校の先生による科学遊び（理科実験）は追小進学希望者以外にも人気があり、良い企画だと思う。 ・両中高の吹奏楽部によるコンサート、追大教授による読み聞かせは園児だけでなく保護者も楽しみにしている企画になっている。 ・今年度は創立130周年式典があったが、こども園から大学・大学院までの総合学園のメリットが最大限に活かされた。 ・チアダンスの発表、ロボット教室体験等、今後も小学校・両中高との交流を深めていくことが園児にとっても良い刺激となり良い効果が得られると思う。
<p>(5) 施設・安全 保護者に選ばれる安全安心・清潔快適な保育環境づくりを行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・防犯カメラによる園全周の警備 ・教育課程保育室の冷暖房設備の段階的刷新（50周年事業） ・園庭・遊具の整備 	<ul style="list-style-type: none"> ・遊具の安全点検、防犯カメラの設置、日々の行き届いた清掃等子どもを安心して預ける体制が整っている。 ・冷暖房の刷新がなされより快適に過ごせるようになった。 ・書き込み事案についても園児の安全確保を第一に迅速、適切に対応できていた。
<p>(6) 人事・組織 子育て支援事業部門の充実を図る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・縦割り保育のメリットを活かしたカリキュラムの作成 ・教育保育両課程の保育教諭の処遇一体化と運用の一体化 	<ul style="list-style-type: none"> ・幼保の連携をさらに強め、先生方にとっても働き易く、長く勤められる職場であることを願う。 ・幼保の子どもたちの異年齢交流、各学年間の異年齢交流、預かり保育での異年齢交流のカリキュラム化がさらに進むことを期待します。